

薬理学Ⅱ

Pharmacology Ⅱ

薬：E1-02221MY、生命：E1-02221MS

医療科目 2年／後期 1.5単位 必修科目

科目責任者 道永 昌太郎(薬効学研究室)

■教育目的

自律神経系の伝達物質並びに自律神経系に作用する薬物について、受容体、作用機序、臨床応用、副作用などを理解することを目的とする。さらに、生体の生理機能や防御機構に関与する内因性物質であるホルモンやオータコイドについて理解し、関連疾患の治療薬について、受容体、作用機序、臨床応用、副作用などを理解することを目的とする。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-③、SD-②、SD-③】

■学習到達目標

1. 自律神経系の形態・機能を理解し、代表的な作用薬の薬理作用、作用機序、臨床応用及び主な副作用について説明できる。(知識)
2. 代表的なホルモンを列挙し、ホルモンの生理作用を理解して、ホルモン関連疾患及び治療薬について説明できる。(知識)
3. アレルギー、炎症及び免疫に関連する生理活性物質を列挙し、その薬理作用及び病態における役割を説明できる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所に目を通しておく。(30分以上)

復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する。(30分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

交感神経系と副交感神経系の概説、自律神経系の薬理(ノルアドレナリン、アドレナリン、アセチルコリン関連薬物、神経節作用薬)、ホルモンの生理作用・関連疾患、アレルギー・免疫・炎症系の薬理などに関して講義する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	自律神経系に作用する薬	自律神経総論Ⅰ	C7(1)-④-2 C7(2)-①-1,2,4
2	//	自律神経総論Ⅱ	C7(1)-④-2 C7(2)-①-1,2,4
3	//	交感神経興奮様薬・交感神経抑制薬	E2(1)-①-1 E2(1)-④-1 E2(3)-①-1,2 E2(4)-①-1
4	//	副交感神経興奮様薬・副交感神経抑制薬	C7(2)-⑤-1 E2(1)-①-2 E2(1)-④-1 E2(3)-③-4 E2(4)-①-2 E2(4)-②-1,6
5	//	自律神経節刺激薬および遮断薬 交感神経作用薬、副交感神経作用薬まとめ	E2(1)-①-1～3
6	ホルモンと薬	ホルモン総論	C7(1)-⑩-1 C7(2)-②-1 E2(5)-②-1
7	//	ホルモン分泌異常症の治療薬	E2(5)-②-1～5
8	//	性ホルモン関連薬	E2(5)-②-1
9	免疫・炎症・アレルギーに作用する薬	オータコイド総論(ヒスタミン、セロトニン)及びその関連薬	C7(2)-③-1 E2(1)-③-11 E2(2)-②-1,3 E2(4)-②-1,8 E2(6)-②-1
10	//	オータコイド総論(カリクレイン・キニン系、レニン・アンギオテンシン系、循環ペプチド)及びその関連薬	C7(2)-③-1 C8(2)-①-1 E2(3)-①-4 E2(3)-②-4 E2(4)-②-4

No.	項目	授業内容	SBO コード
11	//	オータコイド総論(アラキドン酸代謝物)及びその関連薬	C7(2)-③-1 C8(2)-①-1 E2(2)-①-1,2 E2(2)-②-1,3 E2(2)-④-1 E2(3)-③-7
12	//	オータコイド総論(血管内皮由来物質、サイトカイン)及びその関連薬	C7(2)-③-1 C7(2)-④-1 C8(1)-③-5 C8(2)-①-1 E2(2)-②-2 E2(2)-④-1
13	//	アレルギー治療薬	E2(2)-②-1,3 E2(2)-④-1
14	//	抗炎症薬(非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬)	E2(2)-①-1,2 E2(2)-④-1
15	//	免疫抑制薬 関節リウマチ治療薬	E2(2)-②-2 E2(2)-③-1 E2(2)-④-1

■ 授業分担者

道永 昌太郎(No. 1～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

講義範囲の過去の国家試験問題やオリジナル問題を MY-CAST にアップし、随時質問に応じる。成績の評価は期末試験(90%)と小テスト(10%)で総合評価する。

■ 教科書

講義プリント

■ 参考書

『薬がみえる vol.1 改訂第2版、vol.2』医療情報科学研究所 編(メディックメディア)

『新しい疾患薬理学』岩崎 克典、徳山 尚吾 編集(南江堂)

『NEW 薬理学』田中 千賀子 他 著(南江堂)

『グッドマン・ギルマン薬理書(上・下)』高折 修二 他 監訳(廣川書店)